

入域観光客統計概況

- 平成 17 年 9 月分 -

平成 17 年 10 月 20 日
沖縄県観光商工部

9 月の入域観光客数は、491,400 人。前年同月比は +7.3%、(+33,600 人) で、同月としては過去 2 番目の記録となった。
1 月～9 月までの入域観光客数は、4,131,800 人。前年同期比は +5.3% (+208,500 人) で、同期間の過去最高を記録した。

1. 国内外別入域状況

国内： 478,300 人 前年同月比 + 6.8% (+ 30,300 人)
海外： 13,100 人 前年同月比 + 33.7% (+ 3,300 人)

2. 主要航路別入域状況

東京： 229,600 人	前年同月比	+ 5.6% (+ 12,100 人)	構成比 46.7%
大阪： 97,100 人	前年同月比	+ 11.2% (+ 9,800 人)	構成比 19.8%
福岡： 57,600 人	前年同月比	+ 1.2% (+ 700 人)	構成比 11.7%
名古屋： 39,100 人	前年同月比	+ 11.1% (+ 3,900 人)	構成比 8.0%
札幌： 9,000 人	前年同月比	+ 63.6% (+ 3,500 人)	構成比 1.8%

3. 概況と見通し

9 月の入域観光客数の概況としては、国内客については、航空路線の増便（関西路線）や航空機の使用機材の大型化（札幌路線、名古屋路線）により提供座席数が増えたこと、前年に比べ台風の影響が少なかったこと、下旬の三連休の日並びが良かったこと、沖縄人気が続いていることなどにより前年実績を上回った。

外国客については、台風の影響が前年より少なく、定期クルーズ船の寄港回数が前年を上回ったことなどにより大幅な増加となった（今月の寄港回数は 7 回、前年同月は 4 回）。

今後の見通しとしては、国内客については、10 月上旬の航空旅客輸送実績が好調に推移していることや、航空路線の増便（羽田路線、名古屋路線）、修学旅行生の増加などにより増加すると見込まれる。

外国客については、10 月末から上海路線が週 5 便に増便となることにより、空路による入域観光客数の増加が見込まれるが、海路による入域観光客数については、定期クルーズ船の運航終了により減少すると予想される。

入域観光客数全体としては、好調に推移すると予想される。

担 当：観光企画課 上原奈津子
T E L 0 9 8 - 8 6 6 - 2 7 6 3
F A X 0 9 8 - 8 6 6 - 2 7 6 7

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

航空運賃の料金が安くなる中旬以降、個人自由旅行商品が集中的に伸びたことや、昨年と比べ天候や連休の日並びが良かったことなどにより前年実績を上回った。

10月は、団体客は前年並みの予約状況であるが、キャリア系エージェントの個人自由旅行商品の動きが良く、全体としては昨年を上回る見込みである。

大阪事務所 (大阪地区)

9月に入り、航空運賃が安くなったことにより低価格ツアー商品が伸びたことや、航空機の提供座席数が増加したこと、台風による影響が最小限にとどまったことなどにより前年実績を上回った。

修学旅行生は前年並みと予想されるが、個人自由旅行商品が好調に推移する見込みであることや、大手旅行社の申込み状況が二桁台で伸びているため、今後も順調に推移すると思われる。

福岡事務所 (九州・山口地区)

平成15年度と比較すると入域観光客数は減少しているが、その要因としては福岡を直撃した台風14号によるキャンセルが多数発生したことや、週末に台風が集中したためであると推測される。

9月～11月は秋の旅行シーズンを迎え、沖縄への旅行需要も高く、団体旅行、個人旅行ともに好調に推移し、昨年並みの実績を達成する見込みである。

名古屋事務所 (名古屋地区)

大型機材の投入により提供座席数が増えたことや、昨年と比べ台風の影響が少なかったことなどにより前年実績を上回った。

10月以降は、航空路線が1便増便となることや、トヨタを中心とした好景気、愛・地球博 (正式名称: 2005年日本国際博覧会) 終了の影響などにより増加すると見込まれる。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

直行便が再開され、使用機材が大型化されたことや、旅行代理店各社が積極的な販促活動を行ったことにより直行便、経由便含めて2桁台の伸びとなった。

10月も好調に推移しているが、11月以降については、やや出足が鈍い様子である。

2. 海外

台北事務所

空路については、臨時便の運航や上海への乗り継ぎ客が減少したこと、海路については、昨年より定期クルーズ船の寄港回数が多いことにより前年実績を上回った。

10月は、中旬に台湾の保険会社のインセンティブツアー (約600名) が実施されたことや、チャーター便 (1便) が運航されたことなどにより空路による観光客は昨年より増加すると見込まれる。

韓国事務所

今年は韓国の旧盆の連休が3日間と短く、航空便のスケジュールが合わなかったことや、他目的地と比較して価格面で競争力が弱かったことなどにより前年実績を下回った。

他目的地がオフシーズンのため、低価格の旅行商品が販売されており、沖縄への集客については苦戦する見込みである。

上海事務所

9月は、夏休み明けで目立った団体客の送客がなく、前月比で落ち込んでいる。

上海直行便が10月30日から週5便へ増便されるが、上海の旅行社に十分な周知が図られていない。上海における沖縄の露出はメディア招聘などにより増えつつあり、今後航空会社や旅行社と連携し、官民一体となった旅行商品の開発や宣伝の強化により、前年以上の実績を達成できると見込まれる。